

白米千枚田田植えボランティア

団体名●藤井基礎ゼミナール／代表者名●藤井浩明(経済学部准教授)

はじめに

2年生の基礎ゼミナール(担当教員：藤井)は、地域の歴史・行事・企業等を調査することを通して、調査・研究の手法について学習することを目的としている。

地域の行事として白米千枚田の保全活動を調査した。白米千枚田は世界農業遺産「能登の里山里海」の棚田であり、その景観は奥能登地域の貴重な観光資源となっている。この棚田を保全するために地域では様々な取り組みが行われている。

今回は、白米千枚田の保全活動の一環である田植えボランティアに参加することによって、学生が地域の景観保全の取り組みを体験しながら学ぶ機会を設けた。

活動内容

5月12日に学生19名が白米千枚田の田植えボランティアに参加した。田植えが初めての学生も多く、作業に戸惑いながらも、他のボランティアの方に教えてもらいながら、約2時間田植え作業を行った。

その後、田植えボランティアだけでなく、オーナー制度や交流会等も含めた白米千枚田の景観保全活動全体について学生が調査し、ゼミナールの授業にて発表をし、景観保全における地域の取り組みのあり方やボランティア活動の有効性について考察した。

成果、結果の考察

社会調査には様々な手法があるが、大切なことは現地で現物・現実を確認することだと考えている。インターネットでも、地域の歴史や行事等を調査することは可能であるが、現地を訪問し直に体験をすると、インターネットや図書から得る情報とは異なる印象を受けたり、新たな事実を確認したりすることがある。田植えボランティアに参加することによ

って、現地で現実を確認することの重要性を学生は理解することができたと考えている。

今後の課題、展望

今年度は田植えボランティアのみの参加であったが、来年度は毎年9月に行われている稲刈りボランティアにも参加する予定である。

また、景観保全活動だけでなく、地域の伝統芸能や文化財(例えば、御陣乗太鼓など)の保全活動についても調査していきたいと考えている。

